

第1章 二戸市を取り巻く社会の変化

国勢調査による二戸市の人口は、昭和30年の約41,500人（旧福岡町、旧金田一村、旧浄法寺町の国勢調査人口合計数値）をピークにその後次第に減少し、平成27年には27,637人（国勢調査速報値）となっています。

また、日本創生会議の人口推計による二戸市の将来人口は、平成27年の27,637人から平成37年には約24,200人まで減少し（▲12.4%）、この内15歳未満の人口は、平成27年の3,131人（岩手県人口移動報告年報）から平成37年の約2,300人まで減少（▲26.5%）すると予測しています。

このような人口減少化や少子化の進行は全国的な傾向になっているとともに、国際的にはグローバル化や高度情報化が急速に進展してきており、本市を取り巻く社会の情勢は大きく変化しようとしています。

また、地域社会においては、高齢化の進行、生活に対する意識や価値観の多様化、人間関係の希薄化が懸念されており、各種団体や地域、家庭での主体的な社会参加や学習活動等を通じた地域コミュニティの構築が期待されています。

人口減少、グローバル化や高度情報化など社会が急速に変化する中で、将来を担う子どもたち一人ひとりに、道徳心や他人を思いやる心など豊かな人間性を育むとともに、様々な環境の変化に十分対応できる力を身につけ、広い視野を持って社会の発展に貢献できる人材を育成することが期待されています。